2018 年度　タイ王国マハナコン工科大学獣医学部

研修報告書（第３回：8/17～8/31）

北里大学獣医学部　獣医学科

2018年度タイ王国マハナコン工科大学獣医学部研修報告（第三回：8/17～9/1）

獣医臨床繁殖学研究室　　三浦　弘

タイ王国マハナコン工科大学(MUT)獣医学部夏季研修は北里大学とMUTの協定に基づく研修プログラムに基づいて行われており、本学からの研修は三回目となる。今回の同行教員は2017年5月頃に決定した。

2017年度研修報告会が11/27に実施され、この後2018年度研修の説明会を行った。そこで希望者にアンケートを配布して提出してもらい、この結果力丸さつき（獣医生理学研究室）、田村明希子（人獣共通感染症研究室）の2名の学生についてアジア国際交流実務委員会のメンバーで12/5に面談を行ったうえで今回の研修生として決定した。

これまでは交換プログラムとして6月頃にMUTの学生が北里大学へ研修に訪れていたが、本年度はMUTの体制変更のため中止された。その代わりに北里大学との連絡担当であるDr. Jamesが5月に来日し、5/16に研修学生とともに顔合わせを兼ねた会食と情報交換を行った。研修に関する主なやりとりは三浦とDr. Jamesとの間でメールで行われた。

・日程と航空便について

日程は、2018年1月頃、北里の試験と実習日程、MUTの都合を考慮して昨年とほぼ同様の8/17（金）から8/31（金）に決定した。値段と時間から航空便を決め、近畿日本ツーリスト(株)に研修学生と同行教員の航空券購入と現地空港税、原油サーチャージ・航空保険料支払いの手続きを委託した。

行き：8/17　NH847便

羽田空港　11:05発　　バンコクスワンナプーム国際空港　15:40着

帰り:9/1(8/31 深夜) NH808 便

バンコクスワンナプーム国際空港 0:30 発　成田空港 08:40 着

この時間と日程をもとにしてMUT側が実習の予定を組んだ。

・事前準備と手続き

1/18、2/15、7/12の3回、同行教員と研修学生の狂犬病ワクチン接種を行なった。5 月に国外出張願い、国外出張申請書、MUT からの研修生受け入れ許可証、研修参加申込書、父兄同意書、学生の個人記録および TOEIC 成績を事務に提出し、6月に教授会で研修が了承された。MUT 側には同行教員の履歴書と研修学生の個人記録、TOEIC 成績、推薦状、パスポートのコピーを提出した。旅行保険については同行教員は株式会社 AJI を通じて、研修学生は個別に加入した。また、6 月に安全保障輸出管理制度が導入され、次年度以降はこの手続きが必要になる。

本年度は同行教員と研修学生は別の宿泊施設となった。学生の宿泊費は一人当たり3000バーツを日本から振り込み、水道、Wi-Fi、電気の使用料(一人当たり1500バーツ程度)については MUT 側に負担していただいた。教員の宿泊施設に Wi-Fi がなかったため事前に予約して羽田空港でポケット Wi-Fi を借り、さらに MUT 側に大学の Wi-Fi を借用できるように依頼した。また外務省海外安全ホームページを参照し、たびレジに登録した。

7 月と 8 月に、宿泊費の振り込み、たびレジの導入や空港での待ち合わせ時間などについて研修学生と打ち合わせを行った。8/16 に東京入りし、8/17 に研修生と待ち合わせのうえ羽田空港を発ち、スワンナプーム国際空港で MUT スタッフと合流した。

・タイでの生活

教員の宿泊施設は冷蔵庫、電子レンジ、電気ポット、さらにエアコンがあり快適に過ごせた。また近くにスーパーマーケットやセブンイレブン、コインランドリーがあり生活に支障はなかった。学生の宿泊施設や獣医学部とも近く、最初はMUTまで車で送迎

してもらったが、慣れてからは徒歩で通った。雨季であったが幸いにも激しいスコールには遭遇せず、数回雨が降った程度だった。食事は辛かったりスパイシーだったりするものも多いが、外食の時はMUTのスタッフが注意してくれたので特に問題はなかった。外食以外は主に弁当などを買うか、インスタントラーメンを電子レンジで調理していた。水道の水は飲めないため、飲料水は購入した。

学生の研修中、同行教員は基本的に昼間はMUTでWi-Fiを借用して仕事をさせてもらい、夜は宿泊施設でポケットWi-Fiを使用した。前月に北里のメールシステムがDeepMailに切り替わったばかりだったが、ブラウザメイルで問題なく使用できた。休日は学生とともにアユタヤ遺跡、エレファントキャンプ、グランドパレス、ジムトンプソンハウス、カオキオ動物園などの観光施設や、市場とショッピングモールに案内してもらい、退屈することはなかった。

研修修了式では学部長の挨拶と、研修学生と同行教員の簡単なスピーチが行われた。現地でわかったことだが、MUTは週30時間労働制なので月曜日から30時間勤務後金曜日は出勤しない先生が多く、このためもあって修了式は最終日の8/31ではなく日程終了前の8/29となった。

帰国の際は夕方5時頃にバンでスワンナプーム国際空港に送ってもらい、深夜0:30の出発まで空港施設内で待機した。ゲート外、内とも多くの店があり、特に問題なく過ごすことが出来た。

・費用について

保険や生活費など一般的な海外渡航費用の他に、現地の宿泊費用、東京とバンコクの往復の航空券83400円と狂犬病ワクチン約45000円の支払いについては大学側で斡旋した。宿泊費用は3000バーツ(約9900円)だったが、前述のようにWi-Fi、電気、水道代をMUT側に負担していただいており、実際にはこの1.5倍程度と思われる。私は最初に2500バーツ換金したが、観光などで多く使ったので結局不足

し、後半はカードを使用した。近くのセブンイレブンでは 300 バーツ以上の買い物は VISA カードを使用できたし、JCB やマスターカードを使える店も多かった。

・終わりに

研修が滞りなく終了し、また研修学生や同行教員が快適にすごせたのは Dr. James や、 Dr. Happy、Dr. Darsaniya をはじめとする多くの MUT スタッフと学生達の心遣いの賜物であり、またこれまで交流に尽力されてきた北里大学の教員がたのおかげでもあります。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。北里大学と MUT との交流により、今後も多くの成果を上げる事を願いたいと思います(2018 年 10 月)。

タイでの研修

獣医生理学研究室　5V 13132　力丸　さつき

8/17 から 8/31 までのタイでの研修期間中にマハナコン工科大学の小動物病院、エキゾチックアニマルの病院に研修に行きました。小動物病院は 4 日間、エキゾチックアニマルの病院では 2 日間の研修をさせていただきました。

小動物病院では猫の去勢、避妊手術の見学、診察や処置の見学をさせていただきました。日本よりも猫や大型犬が多い印象を受けました。
小動物病院では日本ではあまり見ることのない犬種のダルメシアンの診察を見学しました。心房細動で、頻脈、イレギュラーリズムの心音を聴診させてもらいました。心電図は P 波の消失と QRS 波の間隔の狭小、増高もみられました。見た目は元気そうでぜんぜん異常があるようには見えませんでした。ほかにもシベリアンハスキーのエコー検査を見学しました。妊娠の確認のために実施していました。また動物病院の先生によるとタイではパルボウイルスがポピュラーで、パルボウイルスにかかって診察を受けに来る動物はハイリスクだというお話も聞きました。日本では子犬の時期に打つワクチンで予防しますが、タイでは予防接種を受けないことも多いみたいです。

小動物病院の実習で感じたことは診察室では飼い主さんと動物看護士さんが一緒に来てまず TPR をインターンできている 6 年生が行い、そのあとに先生が来ていました。日本とは違い学生が積極的に診察に参加している印象を受けました。また、日本と違い体重計は診察台ではなく待合室においてあり、問診表を書くときに一緒に体重も計っておくそうです。

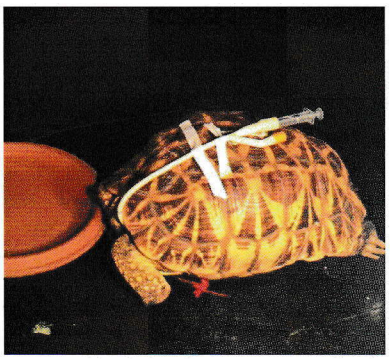
1日は去勢実習の見学をさせていただきました。実習の日は小動物病院が午後から休みになり病院の先生が実習に参加していました。去勢実習では犬と猫が両方おり、犬2頭、猫3頭を5年生が実施していました。1班5人で術者と器具出しが生徒、先生が助手をしていました。他に先生が1人、サポートの6年生も2人程いました。1班につき先生が2人、上級生が2人と5年生の人数とほぼ同じ人数おり、とても手厚く感じました。

エキゾチックアニマルの病院は大学から車で1時間ほど離れた場所にあるPremier Pet Hospitalという場所に行きました。大学近くの滞在していたアパートから少し遠いため病院に1泊しました。インターンで来ていた学生も病院に宿泊しており、みんなでご飯を食べたりしました。5階建ての建物で1階には受付、フードなどペット用品が置いてあるショップ、犬猫の診察室、ICU、2階はエキゾチックアニマルの診察室、3階と4階は入院、処置スペース、手術室、

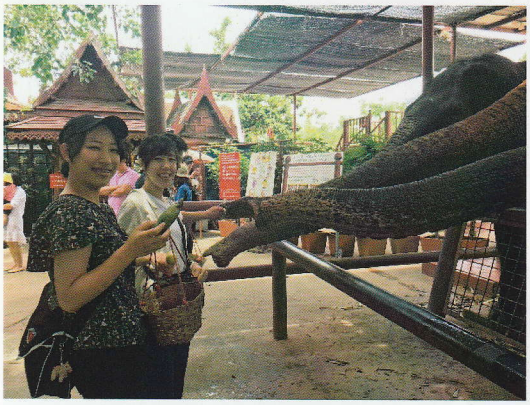
5階に居住スペースがありました。エキゾチックアニマルの病院ではウサギの歯の専門、トリの専門、モモンガの専門ととても細分化されていました。

エキゾチックアニマルの病院ではトリ、ウサギが多い印象を受けました。他にトカゲ、カメ、プレーリードッグと様々な動物がいました。また生後一か月のホワイトライオンが保護されていました。エキゾチックアニマルの病院ですが犬や猫の診察も行っていました。

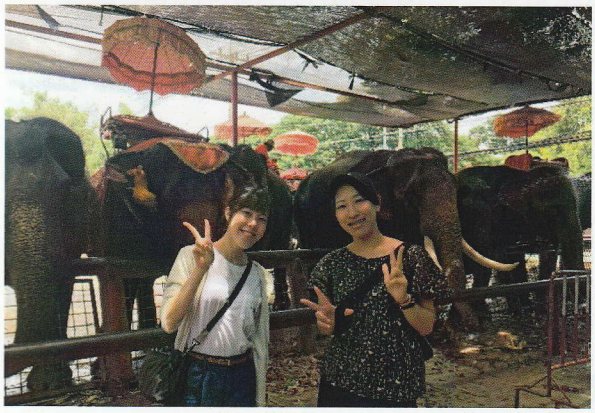
フクロモモンガのしっぽを切る手術を見学することが出来ました。自分でしっぽを咬んで傷つけてしまうため防止するための策としてしっぽの切断でした。麻酔はイソフルランを使用しており、基本は犬猫と同じでしたがすべての器具が小さくてとても繊細な作業が必要だなと思いました。他にもカメの甲羅が割れていたり、物を食べれなくなってチューブからエサを与える治療をしている子がいました。物を食べれなくなったカメは 1 ヶ月ほど入院しており毎日先生がチューブからエサを注入し、学生が温浴しながら日光浴を 20 分ほど、1 日 2 回の散歩を 1 時間ほどのお世話をしていました。散歩はタイの暑い中、外に 1 時間ほどいなきゃいけないため大変だなと思いました。トリはオウムからセキセイインコ、鳩まで幅広い種類のトリがいました。トリはペットだけでなく野生のトリも保護しており、病院の屋上のスペースに野生のトリの入院スペースがありました。



アユタヤではゾウに乗るというタイらしい貴重な体験をしました。ゾウに乗ったまま公道を歩き、横断歩道を渡っておりすごい光景だなと思いました。他にもゾウにエサをあげたり触れ合うことが出来ました。カオキオ動物園はとても広く移動は車で、要所要所で車を停めて動物を見るというものでした。展示方法も広々としており、檻で展示している動物もいましたが檻がなく複数の動物を一緒に展示しておりより野生の雰囲気を味わえる展示もたくさんありました。また、動物園内では飼育されている動物とは別に野生のサルがちらほらみられました。余談ですが、カオキオ動物園に行く途中に車が故障してしまい、停車した近くの工学系の大学でたまたまオープンキャンパスが開かれており、タイでオープンキャンパスに参加するという貴重な体験をしました。タイではオープンキャンパスではなく Open House というそうです。他にもチャトチャック・ウィークエンド・マーケットに連れて行ってもらいました。去年まで生理学研究室に所属していたリンさんが案内してくれました。



今回の海外研修を通して、行く前はやはり緊張と不安でいっぱいでしたが、2週間はあっという間に終わってしまいました。病院での実習の時、先生方や学生さんにとても親切でいろいろ話しかけてくれて、こちらが分かるように分かりやすい英語で説明してくれました。2週間と短い期間でしたが、とても濃い時間を過ごすことが出来ました。これはタイでお世話になった先生や学生さんたちのおかげです。貴重な経験をすることが出来ました。



マハナコン工科大学での研修を終えて

人獣共通感染症学研究室　5V 14080 田村 明希子

8月17日から31日の2週間、私たちはタイのマハナコン工科大学とエキゾチックアニマル病院で研修を受けさせていただきました。

大学付属の小動物病院では、犬猫の避妊・去勢手術、胸部や腹部のエコー画像及びX線画像、また大学病院ならではの様々な症例を見せていただきました。マハナコン工科大学の大学病院は北里大学のそれと異なり、若い先生がとても多く、女性が目立ちました。先生方は英語がまともに話せない私たちにも丁寧に説明してくださり、わざわざ日本語変換しては発音の練習をしてくださったりなど、こちら側に歩み寄ってくださる姿勢が本当に嬉しかったです。学生の数も多く、6年生が診療に参加していることに驚きました。個人的に良かったと思うことは、神経学的検査や実際の心雑音の聴取など、5年前期で習ったことが体験できたことです。教科書や座学で見聞きしたものを目の前で見ることができ、とても印象に残りました。

今回、私たちは避妊手術実習を見学させていただきましたが、学生の数に対してついている先生の数が多く、手厚い印象を受けました。犬と猫の両方で実習を行えることにも驚きました。授業では英語の教科書を使うことも多いようで、学生の皆さんは英語が流暢でした。特に専門用語の知識が豊富で教えてもらっても理解できないことが多く、改めて英語の語彙が不足していることを感じました。

エキゾチックアニマルの病院では、犬猫以外にインコ、オウム、カメ、トカゲ、モモンガなど本当に多種多様のペットを見ることができました。一番驚いたことは、私営の病院で野鳥の保護及び放鳥を行なっていることでした。多くの怪我をした鳥たちが大切に育てられていて、ペットに限らず野生動物にも力を入れていたことが印象的でした。また、モモンガの自咬症の処置として、尻尾の外科切除を見学することができました。手術室にある機材は犬猫用に比べどれも小さく、より細かな作業が求められていました。日本ではなかなか見ることができないであろう経験ができ、非常に嬉しく思いました。さらに、生後一ヶ月のホワイトライオンの赤ちゃんが保護されており、学生がそのライオンを世話していることに驚きました。卒業前の学生でも患畜を任され、責任を持つ機会があるというのは、良い経験になるだろうなと感じました。

休日には、先生や学生の皆さんに、動物園や世界遺産であるアユタヤ、大型ショッピングモール、市場など、たくさんのところに連れて行っていただきました。タイに来た次の日にゾウに乗ることができ、タイに来たという実感が湧きました。ショッピングモールは規模が大きいところが多く、日本食を扱うお店が目立ちました。スーパーにも日本語が並んでおり、タイと日本がこんなにも近かったことを知り驚きました。タイのお土産はタイならではのカラフルな色使いで、見ているだけでも楽しめました。

タイの方々は本当に親切で、辛い料理があると気をつけるように教えてくれたり、泊まるアパートの設備をしっかり点検してくれたり、休憩の時間に冷たい飲み物を買ってきてくれるなど、本当にたくさんの部分でお世話になりました。会ってすぐの人間に対して、これほど親切にされることは日本では経験できないものなのではないかと感じました。2 週間不安もなく快適に過ごしていられたのは、先生方や学生の皆さんのおかげであり、感謝してもしきれないほどです。大変お世話になりました。ありがとうございました。

After Joy
Dessert Cafe